

2010年度 エコノメトリックスII & 上級エコノメトリックスII  
第4回宿題 (2010年10月29日出題)  
解答例

2010年11月19日

Q. 3.5

式(3.33)と同様に、定数ベクトル  $w$  を用いると

$$\text{Var}(w'b) = w'\text{Var}(b)w$$

が成り立つ。ところで分散は非負であるから、上式の右辺は0以上となる。しかし、もしこれが全ての  $w$  について真ならば、その定義により、 $\text{Var}(b)$  は非負値定符号行列でなくてはならない。

もし  $\text{Var}(b)$  が非負値定符号行列でありかつ正値定符号行列ではない場合、 $\text{Var}(w_0'b) = 0$  となる  $w_0$  が少なくとも1つは存在しなければならない。この場合、 $w_0'b$  は定数となるから、

$$\text{rank}(\text{Var}(b)) < k$$

である。

Q. 3.8

$A$  は  $k \times k$  の正値定符号行列 (positive definite matrix)。いま  $R$  を  $R^2 = A$  となる  $k \times k$  の対称行列とする。また  $z$  を  $R^{-1}z = x \neq 0$  となる非ゼロベクトルとする。このとき、正値定符号行列の定義より

$$x'Ax = z'R^{-1}AR^{-1}z = z'z > 0$$

これより、

$$\begin{aligned} x'(I - A)x &= z'R^{-1}(I - A)R^{-1}z \\ &= z'R^{-2}z - z'z \\ &= z'(A^{-1} - I)z \end{aligned}$$

したがって、 $(I - A)$  が正値定符号であれば  $(A^{-1} - I)$  も正値定符号。逆も同様に成立。 QED

次に  $A - B$  が正値定符号行列であれば、

$$\begin{aligned}x'(A - B)x &= z'R^{-1}(A - B)R^{-1}z \\ &= z'(I - R^{-1}BR^{-1})z > 0\end{aligned}$$

ゆえに、 $I - R^{-1}BR^{-1}$  も正値定符号行列。このとき前段の性質から  $RB^{-1}R - I$  も正値定符号行列。

$$z'(RB^{-1}R - I)z = x'(B^{-1} - A^{-1})x > 0$$

よって  $B^{-1} - A^{-1}$  は正値定符号。逆も同様に証明。 QED